

# 助産学実習 I

単位数：9 単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授  
永井 真寿美：臨床看護学講座助教  
日野 佳菜恵：臨床看護学講座助教  
松浦 志保：臨床看護学講座講師

## 1. 科目の教育方針

妊娠・分娩・産褥・新生児期の基礎的な助産実践を、科学的根拠に基づいて実践できる能力と正常からの逸脱を予防するための助産診断力および実践力を修得する。この過程を通し、助産師の責務と規範を学びつつ助産師としてのアイデンティティを育む。

## 2. 実習目標

- 1) 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を理解することができる。
- 2) 妊娠期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 3) 分娩期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 4) 分娩期の産婦と胎児の正常性からの逸脱、異常兆候を予測し、適切な時期に報告、医師と協働し助産ケアを考えることができる。
- 5) 産褥期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 6) 新生児期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて考え、実践できる。
- 7) 自分の行った助産ケアを振り返り、課題を明確にし、実践につなげることができるリフレクシオン力を修得する。
- 8) 周産期に必要な保健医療チームとの連携、及び助産師の責任と役割について考えることができる。

## 3. 教育の方法、進め方、評価等

### 1) 実習施設

江田産婦人科クリニック、隠岐連立立隠岐病院、済生会江津病院、  
島根大学医学部附属病院、日本赤十字社益田赤十字病院

### 2) 実習時期（期間）

前期実習：1 年次前期（5 週間）

後期実習：1年次後期（4週間）

3) 実習内容

- ・分娩介助、ベビーキャッチ、産褥・新生児事例、帝王切開見学及び産褥事例、など
- ・保健指導、助産師外来見学
- ・妊娠中期～産後1か月健診までの継続事例

【評価】

実習目標の達成度により評価を行う。

- 1) 実習記録：40%
- 2) 実習状況（自己評価表含む）：40%
- 3) カンファレンス資料と実習レポート：20%